

令和6年度第1回 米子市廃棄物減量等推進審議会概要

日 時 令和6年6月4日(火) 10:00から

場 所 米子市役所 本庁舎5階 議会第2会議室

1 出席者

(1)委員 (敬称略、順不同)

飯塚 舜介(会長)、仲田 雅彦、松本 眞、吉田 みつ、竹谷 正一、宇田川 和花菜、
伊澤 耕二、谷本 恵美、柴田 真由美、田部 美穂、
(欠席) 尾崎 米厚(副会長)、小川 和郎、矢末 誠、川上 眞由美

(2)事務局

藤岡市民生活部長、高浦クリーン推進課長、池口クリーン推進課長補佐、
森生活環境担当課長補佐、清水クリーン推進課主任

2 議事概要

(1) 第4次米子市一般廃棄物処理基本計画の数値目標の達成状況について

～事務局説明～

【A 委員】

いろいろなごみが減り続けているが、ペットボトルだけ増えているのはなぜか。

【事務局】

家庭系ごみの缶・ビンがペットボトルに置き換わっているのも一つの要因と考えられる。併せて、可燃ごみではなくペットボトルとして適正に排出されていることも理由と推察される。

【B 委員】

資料1 2 ページの「1人1日当たりのごみ排出量」の表と5 ページの「生活排水の処理形態別別人口」の表で人口が違うのはなぜか。

【事務局】

2ページの表は10月1日現在、5ページの表は年度末(3月31日)現在の人口であり、基準日が違うため。

【B 委員】

資料1 2 ページの「1人1日当たりのごみ排出量」の表の事業系ごみの排出量も、総人口で割ってあるが、事業所数で割るのが適切ではないか。

【事務局】

「1人1日当たりのごみ排出量」の表はごみの総量を人口で割るという環境省の示した統計手法に基づいて作成している。全国の自治体がこの手法で統計数値が作成しており、自治体間比較もこの数値で行われている。また事業所の規模も様々であり、一概に事業所数で割った数値では比較が難しいためこのような数字の出し方になっている。

【C 委員】

家庭系ごみは減少傾向であるが、事業系ごみが横ばいである。この事業系ごみを減らしていく考えがあれば教えてもらいたい。

【事務局】

パンフレットを刷新したが、改めて事業系ごみを排出する事業者へ送付し、さらなる減量化の取組の啓発・周知を行っていく。併せて排出量の多い事業所へは訪問により個別に啓発・周知を行っていく。

【D 委員】

白色発砲スチロール・トレイの減少理由は何か。スーパー等の店頭回収も減少要因の一つなのか。

【事務局】

お見込みのとおり。場所によっては白色以外も回収しているため、より店頭回収が進んでいると推察される。

【E 委員】

「1人1日当たりのごみ排出量」の表の事業系ごみの分類が少ないが、区分がないものは家庭系ごみとして出されているのか？

【事務局】

家庭ごみで不燃ごみに分類されるプラスチック、金属類等の事業系ごみは、基本的に産業廃棄物に分類されるため「1人1日当たりのごみ排出量」の表には掲載していない。事業系の古紙もあるがデータが確定していないため掲載していない。

【会長】

パンデミックによるコロナ感染が蔓延していたが、そういった感染が疑われるような廃棄物の扱いはどのようにされているか？

【事務局】

ごみ置場に出す場合は、袋を密閉するためしっかり結んでもらう、2重にしてもらう等お願いしている。

(2) 第5次米子市一般廃棄物処理基本計画(令和8年3月策定予定)に係る市民アンケートについて
～事務局説明～

【事務局】

本日提示している、第5次米子市一般廃棄物処理基本計画(令和8年3月策定予定)に係る市民アンケートについては現時点(令和6年6月4日)での案であり、本日の審議会での意見等を踏まえ、協議検討させていただき、アンケートを実施したいと考えている。

【F 委員】

アンケート対象者が3,000人というのは統計的に適切な数なのか。DXの推進の観点から、さんあーるのアプリとの連動等は考えていないか。

【事務局】

市役所内の他のアンケートも3,000人が一般的であり、回答率は概ね3,4割である。そうすると約1,000件の回答が得られることから、統計的に母集団としては問題ない数と判断している。アプリについては、普及にも努めているところであり、さらに周知をしていく。

【G 委員】

設問の中の具体的な話になるが、地区分けの中で、車尾地区が加茂地区、河崎地区、住吉地区と同じ区分けになっているが、隣接しているわけではないので違和感を感じる。次に、回答項目の「畑に捨てて減量している」の選択肢は、行政がごみを畑に捨てることを推奨しているように誤解を招き、畑への不法投棄にもつながるのではないか。

【事務局】

自治会の区分けを参考にした結果であるが、参考にさせていただいて検討する。「畑に捨てて減量している」の表現方法は検討する。意図としてはあくまでも自分の畑という意味合いである。

【A 委員】

私は自分の畑があるので畑に捨てることもある。お住いの地区も設間にあることから地区ごとの傾向も見えてくるのではないか。

【H 委員】

アンケートの内容ではないが、冒頭の文章の中で、アンケートの調査結果がどう施策に反映されるのか書いてあると、よりアンケートに回答してもらえるのではないかと思う。あと、所要時間の記載もあると、より回答してもらいやすくなるのではないか。

【事務局】

冒頭の文章は、よりたくさん回答してもらえるよう表現を検討する。所要時間についても、表現方法も含めて検討する。

【B 委員】

自治会の加入状況の調査は今回のアンケートからか。ゴミ置き場は自治会が設置している関係から、この項目は個人的に興味深く思っている。

【事務局】

自治会加入状況の調査は今回のアンケートからである。

(3) その他

【会長】

議題は以上となるが、その他何かあるか。

【事務局】

特になし。次回の開催については、おって案内させてもらう。

以上